

三流薬剤師でもできる!

「自分は「三流薬剤師」ですから」と何度も繰り返した薬剤師の大森真樹さん(きらきら薬局)。熊本県山鹿市の薬局に勤めて15年目、地域の人たちと交流しながら、学校薬剤師の活動や地域医療で薬剤師以外の職種との多職種連携、そして昨年4月に起こった熊本地震を経験し、薬剤師としてではなく、1人の人間として困っている人に何をすべきかを考え、行動してきた。大森さんが今、薬学生に伝

えたいこと。それは、「1人の人間として患者さんを含め、いろんな人とかかわりながら仕事をしてほしい」というメッセージだ。「自ら率先して体験してほしい。そして、『自分にはまだできない』とは思わんでほしい。僕みたいな三流薬剤師でもやれるんやから、みんなにもやれる」という激励の言葉だった。

10歳年が離れたお兄さんも薬剤師。だから小学校の頃から「薬剤師になる」と言ってきた。薬をつくって病気の人を治す、そんなイメージが子どもの頃からあった。

小学校低学年の頃、いじめを経験した。2月の早生まれで同級の子どもたちに比べて体が小さかったことも災いし、「学校にも行きたくない」と何度も思った。そこで始まったお兄さんたちが計画した「真樹のいじめをなくす作戦」。いじめの子に對抗しようと、夏休みには練乳をたくさんかけた食パンを毎日食べ、痩せ細った体は前とは比べものにならないくらい大きくなった。

ちょうど担任の先生が産休に入り、臨時で入った男性の先生が大森

人として何がやれるかが大事

さんのことを気にかけてくれた。クラスの授業では「おい、真樹、ちょっと前来てこの問題解いてみい」。このような経験を経て、大森さんへのいじめはだんだん減っていき、ある時期からはいじめられっ子から一転して、目立つ存在になり、ついにはクラスのまとめ役になった。

臨時の男性の先生が自分を気にかけてくれたこと、そしていじめを経験してクラスのまとめ役になったことが大森さんを成長させた。「悲しい思いや寂しい思いをする人を1人でもなくしたい」。大人しくて口数の少ない人を見つけたら、輪に加わってもらえるよう、集団の中でクロースアップさせることを心がけた。

今では晴れて念願の薬剤師となり、学校薬剤師として小学校、中学校、高校を飛び回り、薬物乱用防止教室では、「自分のことを愛して下さい」「自分を大事にして下さい」と訴え続ける。自分たちだけでは解決できない問題があったときには「家族や学校の先生に相談してください」。それでも相談できないときには「大森真樹に連絡してくれば、俺は秘密を厳守して助けに行くよ」とメッセージを送る。

神奈川の中学校にボランティアで講演したときのこと。やんちゃな中学生が1人。最初は講演を聴く素振りもない態度だったのが、大森さんが話を続けるうちに他の生徒と同じように体操座りで自分を見続ける。講演が終わると、ツカツカと大森さんのもとに歩み寄り、「握手してほしい。先生の言っている言葉が俺の未来に役立つことが分かったよ。俺も先生の名前忘れないから、俺のことを忘れないでほしい」と手を差し出された。「すぐ泣きそうになりましたね。九州から仕事の合間をぬってやってきて、本当によかったと

(19ページへ続く)

熊本・きらきら薬局

大森 真樹さん



他の医療職の人たちとも交流



薬学生のための求人情報サイト

ファーマネット2017&2018

病院求人件数

全国の病院・薬局を300件以上掲載!

<http://www.pha-net.jp/>

ファーマネット

検索

ナンバーワン!

今すぐ登録!

